

お元気ですか

このコーナーでは、病院施設や事業のほか、生活に役立つ“健康豆知識”などを紹介します。



市立長浜病院 心臓血管外科
責任部長 榎本 匡秀

正しく知れば怖くない大動脈瘤

「大動脈瘤」という病気に、皆さんはどのような印象をお持ちでしょうか。「怖い」「命に関わる」「手術が大変そう」など、ネガティブなイメージを持つ人が多いかもしれません。

大動脈瘤とは、胸から腹にかけて走る太い血管である「大動脈」が、風船のように膨らんで「こぶ(瘤)」になる病気です。多くの場合は症状がなく、気づかないうちに大きくなってしまふことがあるため、ここがとても「怖い」点です。

大きくなった大動脈瘤が、もし破裂すると、突然これまでに経験したことのない激しい痛みが襲われ、90%以上の人が「命に関わる」と報告されています。そのため、破裂の危険が高くなる大きさに達した大動脈瘤は、破裂する前に手術で治療することが望ましいとされています。

手術には大きく2つの方法があります。1つ目に、開胸・開腹して行う人工血管置換術(確実性が高い方法)、2つ目に、足の付け根などからカテーテルを入れるステントグラフト内挿術(体への負担が少ない方法)です。

どちらの方法でも、破裂する前に行う手術であれば、近年の日本では手術に関連した死亡率は数%と報告されており、安全性は確立されています。決して簡単な手術ではありませんが、適切な準備を行えば、「しつかり乗り越えることができる」病気です。

大動脈瘤ができる原因には、加齢・高血圧・高脂血症・糖尿病、喫煙、ストレスなどが挙げられます。診断にはCTや超音波といった痛みのない方法で検査を行いますので、気になる場合はぜひかかりつけ医にご相談ください。もちろん当科でも診断させていただきます。

「大動脈瘤」は、破裂する前であれば乗り越えられる病気です。患者さんと共に歩む医療を目指して、市立長浜病院心臓血管外科は皆さんをお待ちしています。

問 市立長浜病院

☎ 68・2300(代表)

ながはまの文化財

市内には、国や県、市が指定した文化財がキラ星のごとく光り輝いています。このコーナーでは、数ある文化財の中から代表的なものをシリーズで紹介しています。

県指定有形民俗文化財

「長浜曳山祭の山車 附、山蔵」

指定日：昭和60年3月29日

長浜曳山祭の山車は通称ヤマと呼ばれています。太刀渡りを行う長刀山と、巡行と狂言執行を行う12の山車(春日山・月宮殿・青海山・諫鼓山・高砂山・狸々丸・壽山・鳳凰山・翁山・常磐山・孔雀山・萬歳樓)があり、これらを収蔵する山蔵と併せて滋賀県の有形民俗文化財に指定されています。

12の山車は正面に4畳半ほどの狂言舞台を有するのが特徴です。主体部分は舞台とその奥の楽屋で、楽屋上部を亭、下部の台車部分を下山といひます。

舞台は周囲を高欄で囲み、正面中央を開けたつくりになっています。前柱や高欄などには、山車ごとに異なった鋳金具がつけます。屋根は唐破風または切妻で千鳥破風がつくも

のもあり、いずれも檜皮葺を模してつくられています。

楽屋は役者の衣装付けや三味線にあわせて太夫が浄瑠璃を語る場所です。舞台障子により舞台と仕切られ、外側壁面に幕を吊ります。

亭は囃子方が乗る場所です。単層または重層の楼閣造りで、あとで付け加えられたものが多いとされ、屋根の上に宝珠や鳳凰などを飾り付けた山車もあります。

山車の建造には長浜の名工である藤岡和泉らがあたり、鋳金具や塗り等には国友鍛冶などの地元の技術が生かされています。また、胴幕にはベルギー製・中国製のものもあり、国際性に富んでいます。

令和8年に巡行を行う山車は翁山・常磐山・孔雀山・萬歳樓です。山車の豪華さをご覧ください。



▲山車

問 文化観光課歴史まちづくり室

☎ 65・6510